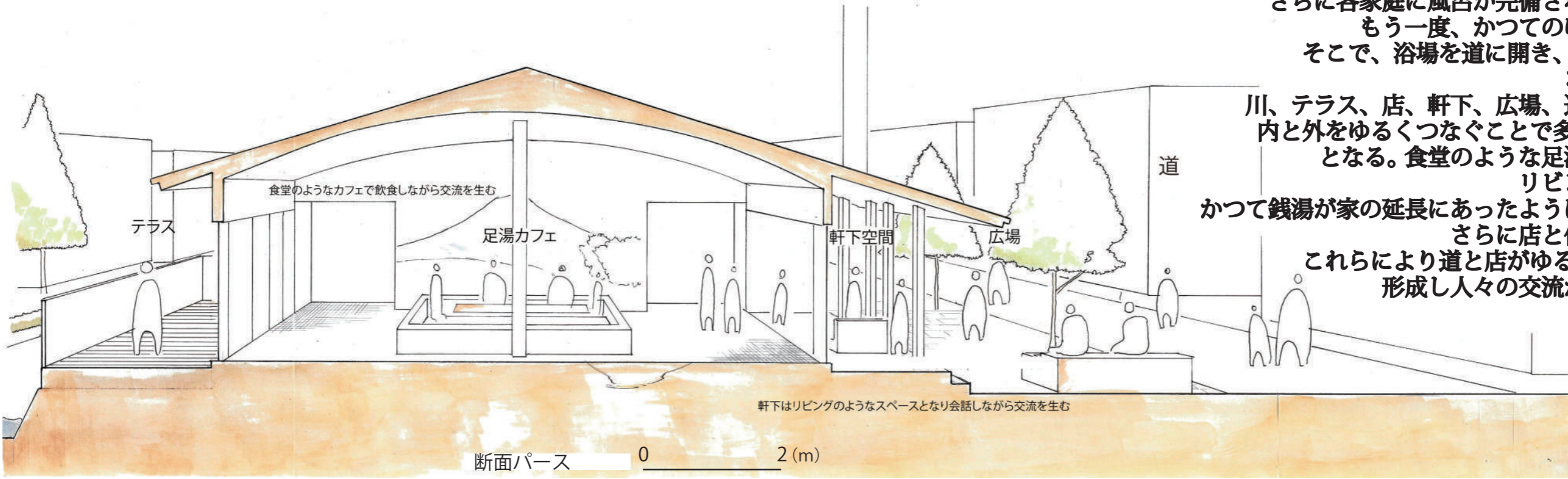
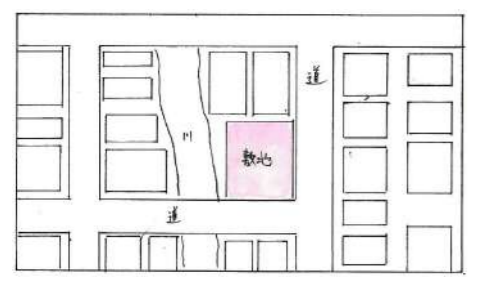


ゆるくつなく <現代版銭湯の役割>

外と内がつながり、地域コミュニティを形成する家を提案する。かつて銭湯はゆるいコミュニティとなり、人々をつなげていた。さらに各家庭に風呂が完備されると銭湯は廃れ空き家となった。もう一度、かつてのゆるいコミュニティを形成したい。そこで、浴場を道に開き、ゆるいつながりを生む建築としてコンバージョンすることを考えた。川、テラス、店、軒下、広場、道ヘレイヤーを重ねゆるくつなく。内と外をゆるくつなくことで多様な利用と人々が入りやすい空間となる。食堂のような足湯カフェ、書斎のようなスペース、リビングのようなスペースで構成する。かつて銭湯が家の延長にあったように家の延長にこの建築が機能する。さらに店と住まいを厨房で空間的につなげた。これらにより道と店がゆるくつなく、地域コミュニティを形成し人々の交流が広がっていくことを期待したい。

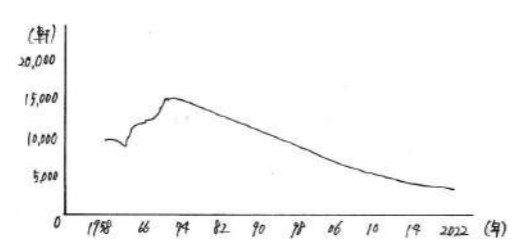


01 道に閉じた銭湯



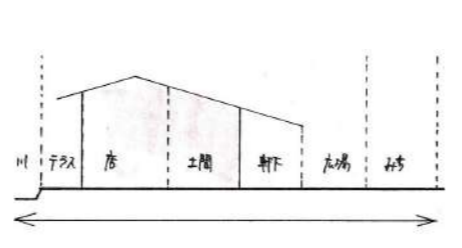
京都府京都市上京区の一隅にある銭湯

02 役割を終えた銭湯

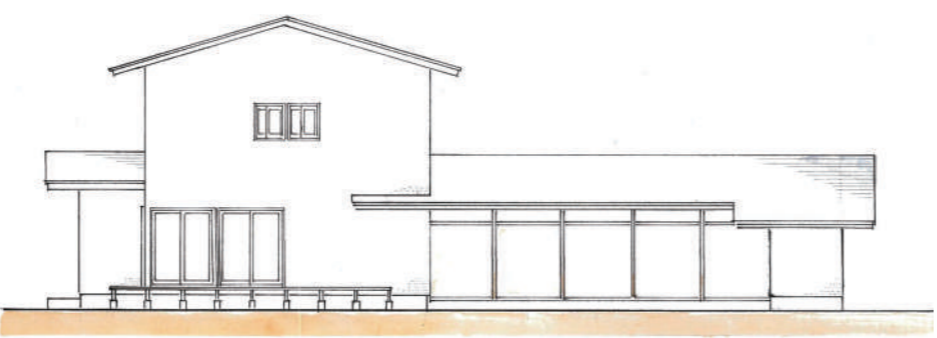
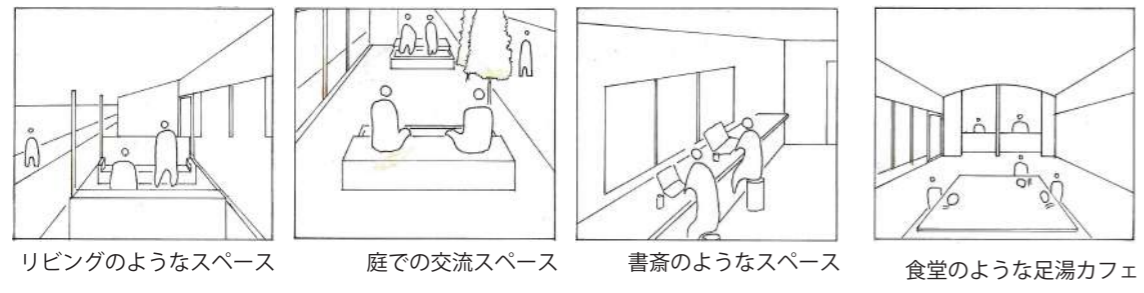


1960年ごろから右肩下がりになっている銭湯業では収益が出ず、新しい活用が必要

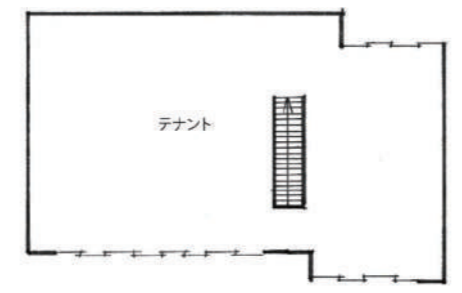
03 つながりの提案



店、土間、軒下、広場、みちヘレイヤーを重ね、ゆるくつなげ、多様な空間の利用と人々の入りやすい空間としている。



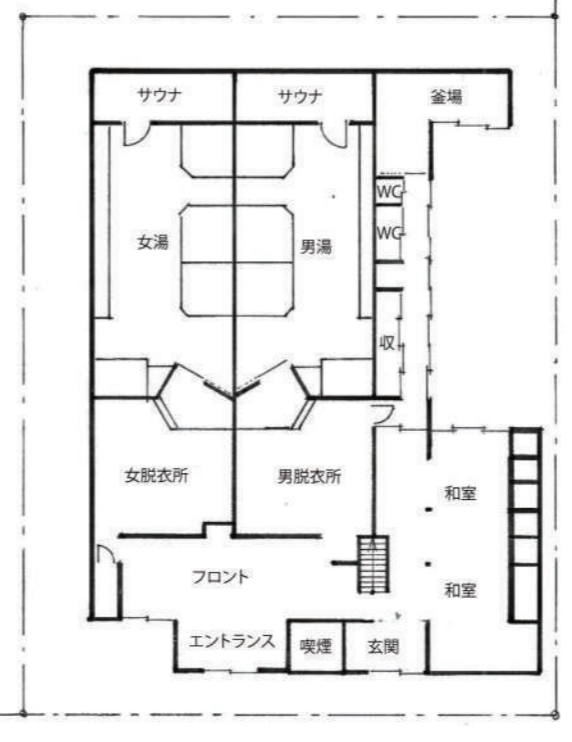
改修後東立面図



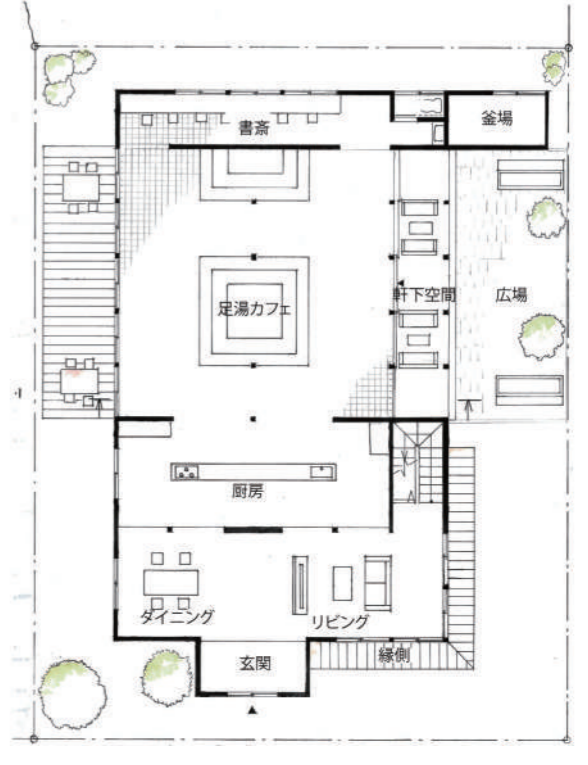
改修前二階平面図



改修後二階平面図



改修前配置図兼平面図



改修後配置図兼平面図

